

英語学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
英語学基礎特論Ⅰ	意味論と語用論における諸問題の研究Ⅰ	2	島 越郎	前期 火曜日 5講時	
英語学特論Ⅰ	音声学基礎と研究手法Ⅰ	2	渡丸 嘉菜子	前期 火曜日 2講時	
英語学特論Ⅱ	統語論意味論インターフェース研究	2	中村 太一	後期 木曜日 2講時	
英語学特論Ⅲ	音声学基礎と研究手法Ⅱ	2	渡丸 嘉菜子	後期 火曜日 2講時	
英語学総合演習Ⅰ	英語学の諸問題研究Ⅰ	2	島 越郎・中村 太一	前期 水曜日 2講時	
英語学総合演習Ⅱ	英語学の諸問題研究Ⅳ	2	島 越郎・中村 太一	後期 水曜日 2講時	
英語学研究演習Ⅰ	統語論と意味論における諸問題研究Ⅰ	2	中村 太一	前期 木曜日 2講時	
英語学研究演習Ⅱ	意味論と語用論における諸問題の研究Ⅱ	2	島 越郎	後期 火曜日 5講時	

科目名：英語学基礎特論 I / English Linguistics (Basic Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LM12504, 科目ナンバリング：LGH-LIN6J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：意味論と語用論における諸問題の研究 I
2. Course Title (授業題目)：Topics in Semantics and Pragmatics I
3. 授業の目的と概要：生成文法における意味論や語用論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。今学期は、Daniel Buring (2016) *Intonation and Meaning*, Oxford University Press を精読する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course addresses theoretical and empirical issues in semantics and pragmatics.
Topics may include focussing, givenness, deaccenting.
5. 学習の到達目標：意味論と語用論における最新動向を把握する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent semantic and pragmatic research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) Ch. 1: Prominence, Accent, Focus (1)
 - 2) Ch. 1: Prominence, Accent, Focus (2)
 - 3) Ch. 1: Prominence, Accent, Focus (3)
 - 4) Ch. 2: Focus and Givenness in Flexible Accent Languages (1)
 - 5) Ch. 2: Focus and Givenness in Flexible Accent Languages (2)
 - 6) Ch. 2: Focus and Givenness in Flexible Accent Languages (3)
 - 7) Ch. 2: Focus and Givenness in Flexible Accent Languages (4)
 - 8) Ch. 2: Focus and Givenness in Flexible Accent Languages (5)
 - 9) Ch. 2: Focus and Givenness in Flexible Accent Languages (6)
 - 10) Ch. 3: Focus and Givenness Theories (1)
 - 11) Ch. 3: Focus and Givenness Theories (2)
 - 12) Ch. 3: Focus and Givenness Theories (3)
 - 13) Ch. 3: Focus and Givenness Theories (4)
 - 14) Ch. 3: Focus and Givenness Theories (5)
 - 15) Ch. 3: Focus and Givenness Theories (6)
8. 成績評価方法：
レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]
9. 教科書および参考書：
Daniel Buring (2016) *Intonation and Meaning*, Oxford University Press
10. 授業時間外学習：担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
生成文法に関する基礎的知識を前提とする。

科目名：英語学特論 I / English Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：渡丸 嘉菜子

コード：LM12206, 科目ナンバリング：LGH-LIN6J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音声学基礎と研究手法 I

2. Course Title (授業題目) : An Introduction to Phonetics and Experimental Methods I

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、受講生は自ら音声学分野での研究を行うための必要な知識と技術を身につける。まず、教科書を用いて音声学の 3 分野（調音音声学、音響音声学、聴覚音声学）について基礎を学ぶ。その上で実技を行い、音声学の研究手法を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Through this course, students will acquire fundamental knowledge and skills to conduct research in Phonetics and related fields. The course provides an introductory lecture about the three aspects of Phonetics (Articulatory, Acoustic, and Auditory Phonetics). Students will involve in exercises to build fundamental skills for doing research in Phonetics.

5. 学習の到達目標：(1) 音声学の 3 分野について、研究対象と研究手法を理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。

(2) 音の分類について理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。

(3) 音声現象について自らデータの収集・分析を行い、結果の考察できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) Be able to explain the 3 aspects of Phonetics, including their research objects and research methods, with specific examples

(2) Be able to explain how sounds are classified with specific examples

(3) Be able to collect and analyze data on speech phenomena and discuss the results

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業方法：講義、実技、議論、受講生による発表

授業内容

本授業は、担当講師による講義と、受講者参加型の活動で構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。各回における教科書の範囲については授業内で指示する。なお、受講生の理解度や興味にもとづいて内容を変更することある。

1. 授業内容の説明、受講生による自己紹介
2. 調音音声学(1) 発声
3. 調音音声学(2) 音の分類
4. 調音音声学(3) 音変化
5. 調音音声学(4) まとめ、ミニレポート
6. 音響音声学(1) 音の分析 1、Praat の使い方
7. 音響音声学(2) 音の分析 2、Praat を用いた実技
8. 音響音声学(3) 音の分析 3、Praat を用いた実技
9. 音響音声学(4) まとめ、ミニレポート
10. 聴覚音声学(1) 知覚 1
11. 聴覚音声学(2) 知覚 2
12. 聴覚音声学(3) 知覚 3
13. 聴覚音声学(4) まとめ、ミニレポート
14. これまでのまとめ、受講生による期末レポートの発表 1
15. これまでのまとめ、受講生による期末レポートの発表 2

8. 成績評価方法：

1. 授業参加 10%
2. ミニレポート 60%
3. 期末レポートと発表 30 %

9. 教科書および参考書：

A Course in Phonetics, 7th ed, Wadsworth Pub. Co.

10. 授業時間外学習：教科書の該当範囲を予習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

授業内で音声分析用ソフトウェアをダウンロードする。

科目名：英語学特論Ⅱ／ English Linguistics (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LM24208, 科目ナンバリング：LGH-LIN6J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統語論意味論インターフェース研究
2. Course Title (授業題目)：Syntax-Semantics Interface
3. 授業の目的と概要：生成文法理論による統語論・音韻論・意味論のインターフェイスに関わる研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course will address issues on the Syntax-Phonology-Semantics interface phenomena and aims to provide useful information for future research.
5. 学習の到達目標：生成文法理論による統語論・音韻論・意味論のインターフェイスに関わる研究の動向を把握するとともに、今後の研究に活用する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will understand current issues on the Syntax-Phonology-Semantics interface phenomena, and use the information obtained from this course well for future research.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
授業は、講義、学生の発表、ディスカッションにより構成される。内容およびスケジュールは次の通りである。

第1回：ガイダンス
第2回：Ch. 5：Grammatical Silences from Syntax to Morphology (1)
第3回：Ch. 5：Grammatical Silences from Syntax to Morphology (2)
第4回：Ch. 5：Grammatical Silences from Syntax to Morphology (3)
第5回：Ch. 5：Grammatical Silences from Syntax to Morphology (4)
第6回：Ch. 5：Grammatical Silences from Syntax to Morphology (5)
第7回：Ch. 5：Grammatical Silences from Syntax to Morphology (6)
第8回：Ch. 6：The Morphophonology of Ellipsis (1)
第9回：Ch. 6：The Morphophonology of Ellipsis (2)
第10回：Ch. 6：The Morphophonology of Ellipsis (3)
第11回：Ch. 7：Fragments and Left-Edge Ellipsis (1)
第12回：Ch. 7：Fragments and Left-Edge Ellipsis (2)
第13回：Ch. 7：Fragments and Left-Edge Ellipsis (3)
第14回：Ch. 7：Fragments and Left-Edge Ellipsis (4)
第15回：まとめとディスカッション
8. 成績評価方法：
授業における発表 [30%] と期末レポート [70%]
9. 教科書および参考書：
テキスト：Güneş, Güliz and Anikó Lipták (2022) The Derivational Timing of Ellipsis, Oxford University Press.
参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社
10. 授業時間外学習：予習を十分に行う (2時間)。授業後は論点をまとめるとともに、自分の研究テーマとの関連性について検討を行う (2時間)。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：英語学特論Ⅲ／ English Linguistics (Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：渡丸 嘉菜子

コード：LM22204, 科目ナンバリング：LGH-LIN6J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音声学基礎と研究手法 II

2. Course Title (授業題目) : An Introduction to Phonetics and Experimental Methods II

3. 授業の目的と概要：この授業は、音声学基礎と研究手法 I を受講済みであることを前提として行う。この授業を通して、受講生は音声学分野での研究テーマを自ら設定し、データ収集と分析を行う知識と技術を身につける。授業では、教科書を用いて音声学の基礎知識を確認しつつ、英語（もしくは日本語）で書かれた論文を読む。受講生は、読んだ論文の不足点や発展の可能性について議論を行いながら、それを解決するための適切な研究方法について自分で考える力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Students are expected to take An Introduction to Phonetics and Experimental Methods I before taking this course. Through this course, students will develop the knowledge and skills to collect and analyze data to answer their own questions in Phonetics. In this course, students will read papers written in English (or Japanese) while reviewing basic knowledge of phonetics using the textbook. Students will develop the ability to think of appropriate research methods to answer the remaining questions in the papers they read through discussion with their lecturer and classmates.

5. 学習の到達目標：(1) 音声学の研究対象と研究手法を理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。

(2) 音声学の既存研究を批判的に読み、研究を進展させるために必要なリサーチクエスチョンおよび研究方法を自ら提案できるようになる。

(3) 音声現象について自らデータの収集・分析を行い、結果の考察ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) Be able to explain the research objects and research methods in Phonetics with specific examples

(2) Be able to critically read existing research in Phonetics and propose their own research questions along with the methods to answer the questions.

(3) Be able to collect and analyze data on speech phenomena and report the results

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業方法：講義、実技、議論、受講生による発表

本授業は、担当講師による講義と、受講者参加型の活動で構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。各回における教科書の範囲および論文については授業内で指示する。なお、受講生の人数、理解度、興味にもとづいて内容を変更することある（特に第11回～第15回）。

1. 授業内容の説明、受講生による自己紹介
2. 復習：調音音声学（発声・音の分類・音変化）、論文講読1-1 リサーチクエスチョンの検討
3. 論文講読1-2 先行研究の批判的検討（1）
4. 論文講読1-3 先行研究の批判的検討（2）、まとめ
5. 復習：音響音声学（音の分析、Praatの使い方）、論文講読2-1 リサーチクエスチョンの検討
6. 論文講読2-2 先行研究の批判的検討（1）
7. 論文講読2-3 先行研究の批判的検討（2）、まとめ
8. 復習：聴覚音声学、論文講読3-1 リサーチクエスチョンの検討
9. 論文講読3-2 先行研究の批判的検討（1）
10. 論文講読3-3 先行研究の批判的検討（2）、まとめ
11. 受講生による研究テーマの発表と議論
12. 受講生による論文紹介1
13. 受講生による論文紹介2
14. 受講生による期末レポートの発表1
15. 受講生による期末レポートの発表2

8. 成績評価方法：

1. 授業参加 30%
2. 論文紹介 30%
3. 期末レポートと発表 40%

9. 教科書および参考書：

A Course in Phonetics, 7th ed., Wadsworth Pub. Co.

10. 授業時間外学習：授業であつかう教科書および論文を予習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

- 授業内で音声分析用ソフトウェアをダウンロードする。
- 第11回までに自分の興味あるテーマを決める必要があるため、必要に応じて講師と面談をすること。

科目名：英語学総合演習 I / English Linguistics (Integration Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：島 越郎, 中村 太一

コード：LM13205, 科目ナンバリング：LGH-LIN6J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 I

2. Course Title (授業題目)：Current Topics in English Linguistics (Advanced Seminar) I

3. 授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

②討論者がコメントを加える。

③授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.

Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.

5. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

15) Summary

8. 成績評価方法：

期末レポート

9. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：英語学総合演習Ⅱ／ English Linguistics (Integration Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：島 越郎, 中村 太一

コード：LM23203, 科目ナンバリング：LGH-LIN6J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 IV

2. Course Title (授業題目)：Current Topics in English Linguistics (Advanced Seminar) IV

3. 授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

②討論者がコメントを加える。

③授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.

Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.

5. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

15) Summary

8. 成績評価方法：

期末レポート

9. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：英語学研究演習 I / English Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LM14209, 科目ナンバリング：LGH-LIN6J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統語論と意味論における諸問題研究 I
2. Course Title (授業題目)：Topics in Syntax-Semantics Interface I
3. 授業の目的と概要：生成文法理論による統語論・音韻論・意味論のインターフェイスに関わる研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course will address issues on the Syntax-Phonology-Semantics interface phenomena and aims to provide useful information for future research.
5. 学習の到達目標：生成文法理論による統語論・音韻論・意味論のインターフェイスに関わる研究の動向を把握するとともに、今後の研究に活用する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will understand current issues on the Syntax-Phonology-Semantics interface phenomena, and use the information obtained from this course well for future research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は、講義、学生の発表、ディスカッションにより構成される。内容およびスケジュールは次の通りである。

第1回：ガイダンス

第2回：Ch. 1：The Derivational Timing of Ellipsis (1)

第3回：Ch. 1：The Derivational Timing of Ellipsis (2)

第4回：Ch. 1：The Derivational Timing of Ellipsis (3)

第5回：Ch. 1：The Derivational Timing of Ellipsis (4)

第6回：Ch. 2：Extra Deletion Processes (1)

第7回：Ch. 2：Extra Deletion Processes (2)

第8回：Ch. 2：Extra Deletion Processes (3)

第9回：Ch. 3：English VP Ellipsis in Unusual Subject Configurations (1)

第10回：Ch. 3：English VP Ellipsis in Unusual Subject Configurations (2)

第11回：Ch. 3：English VP Ellipsis in Unusual Subject Configurations (3)

第12回：Ch. 4：Derivational Ellipsis and Vehicle Change (1)

第13回：Ch. 4：Derivational Ellipsis and Vehicle Change (2)

第14回：Ch. 4：Derivational Ellipsis and Vehicle Change (3)

第15回：まとめとディスカッション

8. 成績評価方法：

授業における発表 [30%] と期末レポート [70%]

9. 教科書および参考書：

テキスト：Güneş, Güliz and Anikó Lipták (2022) The Derivational Timing of Ellipsis, Oxford University Press.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明（編）『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

10. 授業時間外学習：予習を十分に行う（2時間）。授業後は論点をまとめるとともに、自分の研究テーマとの関連性について検討を行う（2時間）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：英語学研究演習Ⅱ／ English Linguistics (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LM22507, 科目ナンバリング：LGH-LIN6J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：意味論と語用論における諸問題の研究 II
2. Course Title (授業題目)：Topics in Semantics and Pragmatics II
3. 授業の目的と概要：生成文法における意味論や語用論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。今学期は、前期に引き続き、Daniel Buring (2016) *Intonation and Meaning*, Oxford University Press を精読する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course addresses theoretical and empirical issues in semantics and pragmatics.
Topics may include focussing, givenness, deaccenting.
5. 学習の到達目標：意味論と語用論における最新動向を把握する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent semantic and pragmatic research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) Ch. 4: More on Focus/Givenness Representation (1)
 - 2) Ch. 4: More on Focus/Givenness Representation (2)
 - 3) Ch. 4: More on Focus/Givenness Representation (3)
 - 4) Ch. 4: More on Focus/Givenness Representation (4)
 - 5) Ch. 4: More on Focus/Givenness Representation (5)
 - 6) Ch. 4: More on Focus/Givenness Representation (6)
 - 7) Ch. 4: More on Focus/Givenness Representation (7)
 - 8) Ch. 5: More on the Semantics of Focus and Givenness (1)
 - 9) Ch. 5: More on the Semantics of Focus and Givenness (2)
 - 10) Ch. 5: More on the Semantics of Focus and Givenness (3)
 - 11) Ch. 5: More on the Semantics of Focus and Givenness (4)
 - 12) Ch. 5: More on the Semantics of Focus and Givenness (5)
 - 13) Ch. 5: More on the Semantics of Focus and Givenness (6)
 - 14) Ch. 5: More on the Semantics of Focus and Givenness (7)
 - 15) まとめ
8. 成績評価方法：
レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]
9. 教科書および参考書：
Daniel Buring (2016) *Intonation and Meaning*, Oxford University Press
10. 授業時間外学習：担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
生成文法に関する基礎的知識を前提とする。